

2022 年 8 月

P1822

Refurbishing Cities for a Habitable Hotter World

気温上昇下でも居住できる世界を目指す都市改造

Relevance:

Infrastructure

Organization

Talent

Creation

Marketing

Timing:

Initiate

Monitor

Watch

By Madeeha Uppal (Send us [feedback](#))

Description

気温上昇やその他の気候に関する影響によって、世界はますます居心地悪くなり、広い地域で居住できなくなる可能性がある。動植物を保護すると同時に住民の生活の質を向上させようとするプロジェクトは、価値ある取り組みになると考えられる。

気候に強く快適な居住を可能にするには、各都市が、都市の林を増やし、持続可能な交通ネットワークを構築し、さらに例えば、水上都市の建設といった根本的な変化を起こすなど、様々な解決策に取り組む必要があるだろう。規制機関がより柔軟な建築規制や環境再調査プロセスを備えている地域ほど、他地域よりも迅速に障害も少なく気候変動に耐えることができる。

Abstracts that Inspired This Pattern

SC-2022-07-06-041 — Madrid Plans to Use an Urban Forest to Transform Mobility

スペインのマドリードは、ヨーロッパ最大級の都市再生計画において、同都市の気温を最大 4° C 下げると期待される巨大な都市の森の開発に向けて、建築事務所 2 社を選定した。Madrid Nuevo Norte project では、マドリード北部の鉄道駅とその周辺地域も再開発する予定である。

SC-2022-07-06-057 — In the Maldives, a Floating City Is Beginning to Take Shape

モルディブは、20,000 人が居住できる水上都市を建設中だ。住民は 2024 年に入居を開始し、建設は 2027 年までに完了の見通しである。「不動産ディベロッパーDutch Docklands とモルディブ政府の合弁事業である同プロジェクトは、自然実験や未来的展望などではなく、海面上昇という厳しい現実に対抗する現実的な解決策として建設が進められている。

SC-2022-07-06-030 — Utah Faces Serious Threats as the Great Salt Lake Dries Up

ユタ州の湖、Great Salt Lake は、気候変動と急速な人口増加が原因で、すでに 2/3 が干上がっている。いずれ多くの悪影響が現れるだろう。その影響の一つとして、湖底から有毒な粉塵が放出され、近くの州都ソルトレイクシティ周辺で大気汚染を引き起こす可能性がある。

SC-2022-07-06-093 — Reasons Why the United States Cannot Build

米国では大規模な公共事業プロジェクトに欧州やカナダと比べてはるかに時間がかかり、50%コスト高になる傾向がある。米国での建設を困難にする要因は複数あるが、主な要因は、過剰な規制、計画立案者の専門知識の欠如、そして自動化に対する労働者の抵抗であると思われる。

本トピックスに関連する Signals of Change

SoC1302 気候レジリエンスと気候適応技術

SoC1254 不適切な気候適応

SoC1248 気候カオスに備える

関連する Patterns

P1748 グリーンシティのためのスマート材料

P1709 気候変動による社会的混乱

P1689 気候適応という難題